

○減っている？減っていない？有機物による汚濁の解明にむけて

「水質汚濁メカニズムの解明に関する政策課題研究」(2008年－2010年)

コーディネーター: 岡本 高弘

難分解性有機物の現状把握を実施し、特性を明らかにし、湖内の難分解性有機物増加に寄与する発生源を推定します。

また、琵琶湖流域統合管理モデルを開発・改良し、これまでのモニタリング結果および国等が実施する有機物特性把握調査や内部生産関係調査等の結果から、シミュレーションを実施し、総合的に評価・解析し、今後の琵琶湖の有機物対策について提案します。

研究の概要

琵琶湖では、水質保全のための対策がとられているにもかかわらず、環境基準項目のCODが上昇傾向にあります。

滋賀県では、湖沼水質保全特別措置法に基づく第5期湖沼水質保全計画において、琵琶湖における難分解性有機物の発生機構および対策のための調査・研究を行うこととしています。

ここでは、琵琶湖流域での有機物に関する水質汚濁メカニズムを把握するとともに、今後、第6期の湖沼水質保全計画における有機物対策立案への提案に向けて取り組みます。

- 難分解性有機物のモニタリング
- 難分解性有機物の特性調査
- モデルによる検討

